本貫族籍 東京府士族　舊藩 岡山藩

位勲 [redacted]　生年月日 文久三年六月十日

生國郡町村　舊姓名

姓名 有松英義

年號	月	日	任叙轉免出張賞罰等（辭令書アルモノハ此欄内ニ記入ス）	資格	官衙
明治十年	三月	十五日	岡山師範学校ヘ入学		
〃十四年	二月	十五日	小学師範学科全科卒業		
〃	三月		岡山縣士族西敬一ニ就キ漢学修業		
〃十五年	九月	十日	任岡山縣四等訓導		
〃十六年	十二月		辞職		
〃十七年	二月	十六日	東京府下私立独逸学協會學校ヘ入学		
〃十八年	[redacted]		普通科五級ヲ卒業		
〃	九月		専修科ニ入		
〃廿一年	九月		卒業證書ヲ與フ	独逸協會學校	
〃			司法官志願独逸法律高等試驗及第		
〃	十二月	四日	判事試補ヲ命ス	司法省	
			年俸五百圓下賜		
			水戸治安裁判所詰ヲ命ス	〃	
〃廿二年	八月	十六日	本所区治安裁判所詰ヲ命ス	〃	
〃廿三年	三月	五日	芝区治安裁判所詰ヲ命ス	〃	
	八月	二日	改定官等俸給		
	十月	十八日	官名ハ本日勅令ニ依ル		
	十月	廿四日	叙奏任官五等賜下級俸	司法省	
			補芝区裁判所判事	〃	

帝室林野管理局

本籍族籍 東京府士族　藩 岡山藩

位勳 [redacted]　生年月日 文久三年六月十日

生國郡町村　舊姓名

姓名 有松英義

年號	月日	任叙轉免出張賞罰等（辭令書アルモノハ此欄内ニ記入ス）	資格	官衙
明治十年	二月十日	岡山師範学校ヘ入学		
〃 十四年	二月十五日	小学師範学科全科卒業		
〃	三月	岡山縣士族西毅一ニ就キ漢学修業		
〃 十五年	九月十日	任岡山縣四等訓導		
〃 十六年	十二月	辞職		
〃 十七年	[redacted]	東京府下私立独逸学協會學校ヘ入		
〃 十八年	六月十一日	普通科五級ヲ卒業		帝室林野管理局
〃	九月	専修科ニ入		
〃 十一年	九月	卒業證書ヲ與ヲ	独逸協會學校	
〃	〃	司法官志願独逸法律高等試驗及第		
〃	十二月四日	判事試補ヲ命ス	司法省	
		年俸五百圓下賜		
		水戸治安裁判所詰ヲ命ス	〃	
〃 十二年	八月廿日	本所区治安裁判所詰ヲ命ス	〃	
〃 廿三年	三月五日	芝区治安裁判所詰ヲ命ス	〃	
	八月二日	改定官等俸給		
	十月十八日	官名ハ本日勅令ニ依ル		
	十月廿四日	叙奏任官五等賜下級俸	司法省	
		神芝区裁判所判事	〃	

〃廿四年	八月十六日	官等俸給令ニ屍シ俸給制ニ改ム	
	十二月廿三日	叙正八位	
〃廿五年	十月十日	任司法省参事官	〃
		十級俸下賜	司法省
	十月廿日	廃高等官俸給令及官職等級表	
	十月廿一日	民刑局兼務ヲ命ス	司法省
	十月十日	任農商務省参事官	内閣
		叙高等官七等	〃
		八級俸下賜	農商務省
	十二月十日	敕従七位	
〃廿六年	三月四日	群馬縣ニ出張ヲ命ス	農商務省
	三月七日	九州地方ニ出張ヲ命ス	〃
	三月廿一日	任内務書記官	内閣

帝室林野管理局

		叙高等官七等	
		八級俸下賜	内務省
		縣治局勤務ヲ命ス	〃
	四月四日	警保局勤務ヲ命ス	〃
	五月廿九日	愛知縣岐阜縣ニ出張ヲ命ス	〃
〃廿七年	三月廿六日	警視廳監獄東京集治監神奈川縣埼玉縣監獄巡閲ヲ命ス	〃
	四月二日	宮崎縣ニ出張ヲ命ス	〃
	十二月廿四日	兼任法制局参事官	内閣
		叙高等官七等	〃
〃廿八年	三月五日	陞叙高等官六等 本官	〃
		七級俸下賜	内務省
	五月廿二日	兵庫縣岡山縣鳥取縣島根縣石川縣	

		福井縣富山縣ヘ出張ヲ命ス	
	六月廿一日	叙正七位	
	十月十五日	宮城縣福島縣岩手縣青森縣ヘ出張ヲ命ス	内務省
	十月廿六日	陞叙高等官六等 法制局参事官	内閣
	〃	大級俸下賜	内務省
	〃 九年 二月廿二日	長崎縣福岡縣大分縣佐賀縣熊本縣鹿児島縣ヘ出張ヲ命ス	〃
	六月一日	陸軍三等監ヘ出張ヲ命ス	〃
	〃	〃	〃
	〃 三十年 四月十四日	陞叙高等官五等	内閣
	〃	五級俸下賜	内務省
	七月二日	條約實施準備委員被仰付	内閣
	七月十日	叙従六位	
	〃 三十年 十二月四日	東京府下巡回ヲ命ス	
	〃 三十一年 二月四日	本年四月西班牙国マドリット府ニ於テ萬国衛生及ビデモグラフイー會議開設ニ付委員トシテ参列被仰付	内閣
	十月九日	白耳義国アントウエルプニ於テ放免囚徒並棄兒保護ニ関スル萬国會議開設ニ付委員トシテ参列被仰付	〃
	七月十八日	條約實施準備委員被免	〃
	〃 三十二年 一月十八日	歸朝	
	一月廿七日	四級俸下賜	内務省
	三月廿二日	警保局警察課長ヲ命ス	〃
	四月廿七日	陞叙高等官四等	内閣
		三級俸下賜	内務省

帝室林野管理局

六月廿日	敘正六位		
七月十三日	中央衛生會委員被仰付	内閣	
〃三十三年三月十六日	警察監獄學校講師ヲ囑託ス	内務省	
四月三十日	二級俸下賜	〃	
五月十九日	京都府三重縣奈良縣和歌山縣香川縣	〃	
	德島縣ヘ出張ヲ命ス	〃	
六月廿七日	警保局圖書課長ヲ命ス	〃	
七月四日	法典調査會委員被仰付	内閣	
九月十八日	法典調査會委員被當金百圓下賜	〃	
		〃	
九月廿八日	警察監獄學校講師ノ囑託ヲ解ク	内務省	
十月十一日	靜岡縣京都府兵庫縣山口縣福岡縣熊本縣長崎縣愛媛縣香川縣岡山縣ヘ出張ヲ命ス	〃	
〃三十四年三月九日	法典調査會委員手當金百圓下賜	内閣	
		〃	
四月廿六日	警察監獄學校講師ヲ囑託ス	内務省	
六月十八日	法典調査會委員手當金百円下賜	内閣	
七月廿二日	陞敘高等官三等	〃	
	一級俸下賜	内務省	
九月十日	圖書課長ヲ免ス	〃	
九月十八日	法典調査委員手當金百圓下賜	内閣	
十月十日	警察監獄學校講師ノ囑託ヲ解ク	内務省	
十月廿日	敘從五位		
〃三十五年二月八日	免本官專任法制局參事官	内閣	
	一級俸下賜	〃	
二月十二日	第二部勤務ヲ命ス	法制局	

帝室林野管理局

	三月十七日	政務調査會委員被仰付三十六年十二月廢	内閣
	三月廿一日	法典調査委員被免	〃
	六月廿日	叙勲六等授瑞寶章	
	十月廿二日	法制局第二部長心得ヲ命ス	内閣
	十月廿三日	金貳百圓	
		政務調査事務勉励ニ付頭書ノ通手當トシテ支給ス	〃
〃三十六年	五月十五日	内務書記官在官中明治三十三年清國事變ニ於ケル功ニ依リ單光旭日章及金五百圓ヲ授ケ賜フ	賞勲局
		授單光旭日章	〃
	五月廿日	法典調査會委員ノ職ヲ奉シ盡力勤力ス依テ銀杯一箇ヲ賜フ	〃
		帝室林野管理局	
〃三十六年	八月十六日	陞叙高等官二等	内閣
		法制局第二部長ヲ命ス	内閣
	九月廿二日	叙正五位	
		任内務省警保局長	〃
		叙高等官二等	
	十二月廿三日	金貳百五拾圓	
		右政務調査ニ関スル事務特別勉励ニ付頭書ノ通賞賜ス	内閣
〃三十七年	六月廿八日	叙勲五等授瑞寶章	
	十月十日	任三重縣知事	〃
		叙高等官二等	
		三級俸下賜	内務省
〃三十八年	十月八日	贈正四位結城宋廣位階追陞ニ付策	宮内省

命使トシテ社前ニ奏向祝仰付

贈正四位本居宣長位階追陞故慶光院清順ニ贈位ニ付策命使トシテ各墓前ニ奏向祝仰付

十月二日	勲四等授瑞寶章	
〃三十九年 四月一日	勲三等授旭日中綬章 賜金貳千五百円 三十七八年事件ノ功	
明治三十七八年	從軍記章授與	
八月三日	二級俸下賜	
〃四十一年 七月廿日	任内務省警保局長	内閣
	勲高等官二等	
十月十日	勲從四位	
十月廿五日	内務省所管事務改府委員被仰付	内閣

帝室林野管理局

〃四十二年 十月二日	栃木縣ニ出張ヲ命ス	内務省
十月廿二日	内務省所管事務改府委員被仰付	内閣
〃四十三年 四月一日	改高等官俸給令ヲ	
十月廿三日	内務省所管事務改府委員被仰付	内閣
〃四十四年 八月廿四日	貴族院令第一條四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス	〃
九月四日	休願免本官	内閣
九月廿日	恩給年額千拾八円	
	官吏恩給法ニ依リ恩給局審査ノ	
	途ヲ前記ノ恩給ヲ受クヘキコトヲ認メ	
	此證書ヲ附與ス	
大正元年 十月廿五日	任帝室林野管理局長官	宮内省
	勲高等官一等	

大正三四年従軍記章授与

		賜一級俸	
	十月廿六日	大正三年度皇室豫算會議委員被仰付	宮内省
大正三年	一月十七日	帝室林野管理局名古屋静岡両支廳並京都出張所各管内ヘ出張被仰付	
〃	一月廿五日	宮内官考査委員被仰付	
〃	三月廿一日	學習院女學部新築調査委員被仰付	二達 宮内省
〃	三月廿四日	宗秩寮審議官被仰付	
〃	五月十三日	帝室林野管理局名古屋木曾両支廳管内ヘ出張被仰付	
〃	六月廿一日	帝室林野管理局札幌青森両支廳管内ヘ出張被仰付	帝室林野管理局
大正三年	四月十八日	任樞密院書記官長	
		叙高等官一等	
	八月廿三日	文官普通試驗委員長ヲ命ス	樞密院
	六月廿九日	叙勲二等授瑞寶章	
	八月廿九日	補高等捕獲審檢所檢察官	内閣
	十月廿三日	金六百圓	
		事務特別勉勵ニ付賞與ス	樞密院
大正四年	三月一日	叙正四位	
	十月十日	大禮金拾萬圓	賞勲局
	十月廿三日	事務特別勉勵ニ付賞與ス	樞密院
大正五年	四月一日	授旭日重光章	
		賜金千七百円 大正三四年事件功	
	十月廿日	任法制局長官兼内閣恩給局長	

	叙高等官一等		
同日	特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ	同	閣
十月十三日	文官高等試驗委員長被仰付	同	
十月廿三日	明治神宮造營局評議員被仰付	同	
十月廿八日	文官高等懲戒委員被仰付 六年六月二日任期滿了	同	
十月四日	經濟調査會委員被仰付 六年十二月三十日限リ廢止	同	
同日	衆議院議員選擧法改正調査會		
	委員被仰付	同	
十一月七日	帝室制度審議會委員被仰付	宮内省	
十二月六日	高等捕獲審檢所檢察官被免	内閣	
同日	補高等捕獲審檢所評定官	同	
十二月十三日	政府委員被仰付	同	
十二月廿九日	聯合國經濟會議決議實施委員被仰付	同	
大正六年			
六月十三日	文官高等懲戒委員被仰付	内閣	
六月廿日	政府委員被仰付	同	
九月三日	拓殖調査委員會副委員長被仰付	同	
九月廿日	臨時教育會議委員被仰付	同	
十月廿日	金杯一箇賜フ 經濟調査會委員ニ盡力ノ功	賞勲局	
十月廿日	金參百五十円		
	右臨時教育會議委員ノ職ヲ奉シ格別勉勵ニ		
	付手當トシテ給與ス	内閣	
同日	政府委員被仰付	同	
大正七年			
二月廿日	兼任拓殖局長官		
同日	叙高等官一等	内閣	
三月十日	金貳百円		
	右拓殖調査委員會副委員長ノ職ヲ奉		

履歴用紙　樞密院

○十月日 一金勲一等授瑞寶章 ○四年乃至九年事件ノ功

○十月十日 ○十三年乃至十五年 ○大正二年乃至五年 軍役従軍記章授与

	シ格別勉励ニ付賞與	内閣
四月一日	鐵道院共濟組合審査會議長ヲ命ス	同
五月十日	國勢調査評議會副會長被仰付	同
同 日	支那ヘ出張被仰付	同
同 日	朝鮮及南滿洲ヘ出張ヲ命ス	同
八月十六日	軍需評議會評議員被仰付	同
九月十三日	官有財産調査會委員被仰付	同
九月十八日	臨時國民經濟調査會委員被仰付	同
九月廿日	叙従三位	
九月廿四日	依願免本官並兼官	内閣
十月十日	特旨ヲ以テ位一級被進	宮内省
同 日	叙正三位	
十月十二日	依願臨時教育會議委員被免	内閣

履歴用紙

十月廿三日	明治神宮造營局評議委員被免	内閣
十二月廿日	帝室制度審議會委員被免	同
大正八年五月廿四日	金杯一組ヲ賜フ 臨時教育會議委員タリシ力功	賞勲局
大正九年二月十日	任樞密顧問官	
二月廿四日	願ニ依リ貴族院議員ヲ免ス	内閣
八月十八日	改高等官官等俸給令 八月分以降年俸六千五百圓	
十年三月廿三日	第一回國勢調査事業ニ関シ盡力勞功ニ依リ金杯一組ヲ賜フ	賞勲局
十三年四月十五日	文政審議會委員被仰付	内閣
十五年十二月廿日	改元	
昭和二年三月一日	叙従二位	
同 廿四日	授旭日大綬章 第九十三万三千四百三十号	
同 日	薨去	

樞密院

帝都復興記念事業

賞勲局

極密院

履歴用紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/